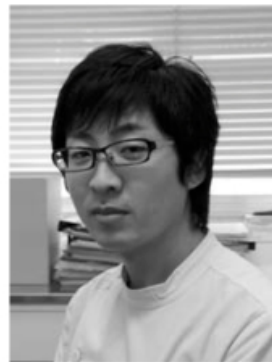


喘息って死ぬ病気？



内科医師

米津 圭佑

山香病院だより vol.53

はじめまして。山香病院内科の米津です。

今回は気管支喘息についてお話ししたいと思います。

気管支喘息とは、気道の慢性的な炎症で気道狭窄が起るために発作性の咳、喘鳴(ぜんめい)、呼吸困難を来す病気です。気管支喘息は世界的に増加しており、日本では成人で3%、小児で6%と報告されており、250万人近い患者さんがいるといわれています。

気管支喘息の恐いところは、重症の発作を起こすと死亡することであり、最近では年間3000人前後が死亡しています。死亡者の約半数は、重症の発作を軽い発作と思ひ込み適切な治療が遅れた、あるいはされなかったことが原因といわれています。

不幸な喘息死をなくすよう

悪化予防・治療を簡単に述べたいと思います。

喘息が悪くなる原因としては、アレルゲン(室内塵、ダニ、ペット、カビ、花粉など)、呼吸器感染、タバコの煙、気象変化、過労、薬物などがあります。アレルゲンが分かっている人は環境整備が大切です。部屋掃除のコツとしては、乾布拭いたりモップ・スクイックルワイパーなどをして掃除機をかけるとういでしょう。

ただ、あまりに神経質にならないようにしましょう。また、喫煙は後述の吸入ステロイドの効果を失わせません。喫煙は喘息の発症率を増加させますし、肺気腫慢性閉塞性肺疾患を発症・悪化させたり、特に母親の喫煙は子どもの喘息発症率を増加させるといわれています。喘息予防には**周囲の禁**

煙が大切です。

喘息治療は、長期管理薬と発作治療薬に分けられます。喘息は、気道の慢性的な炎症であるため、炎症を抑える**吸入ステロイド**(長期管理薬)が治療の基本です。

重症度に応じて経口ステロイド、長時間作用型β2刺激薬(吸入薬・貼り薬)、抗アレルギー薬などを併用します。吸入ステロイドを使用しても発作が起こった際、発作治療薬を使用します。発作治療薬には短時間作用型β2刺激薬、ステロイド剤の点滴などがあります。発作が頻回にある場合は、吸入ステロイドを見直さないといけません。

吸入ステロイドの全身性副作用(高血圧、肥満、骨粗しょう症など)は、殆どないと考えられています。吸入薬として**噎声**(しわがれ声)、口腔真菌症(カビ)があります。感染予防、真菌症予防にも吸入後**はうがい**をしっかりしてください。

最後に、喘鳴(ヒューヒュー音)のない咳のみの喘息(咳喘息)や、心不全による喘鳴(心臓喘息)など咳や喘鳴でも色々あります。咳、喘鳴で困っている方がいらっしやいましたら、是非ご相談ください。